

2025 年度

明海大学大学院

応用言語学研究科

博士前期課程 A 日程

外国語試験問題

注 意 事 項

- 1 解答開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
- 2 日本語・英語・中国語から 1 言語を選択して解答してください。ただし、母語を選択することはできません。

2025年度大学院応用言語学研究科博士前期課程入学試験問題

No. 1 / 3

日 程	研 究 科	区 分	試 験 科 目
A日程	応用言語学研究科	一 般 社 会 人 外国人留学生	日 本 語

第1問 (1) ～ (10) の下線部の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 前述 のとおり A であることは確認されている。
- (2) コーパスにおける頻度に 顕著 な推移がみられた。
- (3) この二つのデータには 重複 がある。
- (4) この分野の研究は 多岐 に渡っている。
- (5) 調査結果に 偏り がみられないよう、協力者の属性を調整した。
- (6) 無作為抽出 は対象となる集団から標本を選ぶ手続きである。
- (7) この研究では仮説を立て、変数を 絞り込む 必要がある。
- (8) 本稿 に対してA氏より丁寧なコメントをいただいた。
- (9) B研究の対象を分類、整理して再提示するとともに 概説 する。
- (10) このような視点からの研究は 萌芽的 な段階にあるといえる。

第2問 (11) ～ (20) の下線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- (11) 山田 (2000) によると、C が してき されている。
- (12) 以下の例は D について適切な かいしゃく ができることを示している。
- (13) 本研究では、E という方法を用いることで問題点を かいひ する。
- (14) この語が用いられる はんい を調査する。
- (15) この現象は母語話者を対象とする研究でも しさ されている。
- (16) しんらいせい のあるデータを収集する必要がある。
- (17) 今後もより多くの現場での じっせん を重ねていきたい。
- (18) この問題は多くの よういん が絡み合っている。
- (19) こうした問題を ほうかつてき に扱うのは本研究の範囲を逸脱することとなる。
- (20) F という観点から こうさつ したものは管見の限り見当たらない。

第3問 次の文の下線 (21) ～ (25) に適切なことばを下の A～E から選んで、その記号を書きなさい。

- ・ これまでの (21) を整理したうえで、本研究の目的を述べる。
- ・ 収集した質問紙から (22) があるものを除いて、集計した。
- ・ 今回の結果は教育の現場へも (23) できると期待できる。
- ・ 以下では母語による影響を (24) したうえで、習得に与える影響を検討する。
- ・ 両者の事例を比較したところ、以下の2つの (25) が明らかとなった。

A. 知見 B. 貢献 C. 相違点 D. 不備 E. 考慮

2025年度大学院応用言語学研究科博士前期課程入学試験問題

No. 2/3

日 程	研 究 科	区 分	試 験 科 目
A日程	応用言語学研究科	一 般 社 会 人 外国人留学生	日 本 語

第4問 次の文章を読んであとの問(1)～問(4)に答えなさい。

問題文については、
著作権の関係から掲載いたしません。

日 程	研 究 科	区 分	試 験 科 目
A日程	応用言語学研究科	一 般 人 社 会 人 外国人留学生	日 本 語

問題文については、
著作権の関係から掲載いたしません。

- 問(1) 下線部 A留学生は日本語に堪能ですが とあるが、筆者はどうしてこのような条件を加えたのか、その理由として考えられることを、わかりやすく説明しなさい。
- 問(2) 下線部 Bその難しさ とあるが、どのような難しさか。わかりやすく説明しなさい。
- 問(3) 下線部 C我々の「当たり前」はどのようにして形成されるのか。 とあるが、その答えを文中の表現を用いながらわかりやすく説明しなさい。
- 問(4) この文章を読んであなたが考えたことを、120字以上150字以内で述べなさい。